

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2026年6月)

■ 6月のパフォーマンス

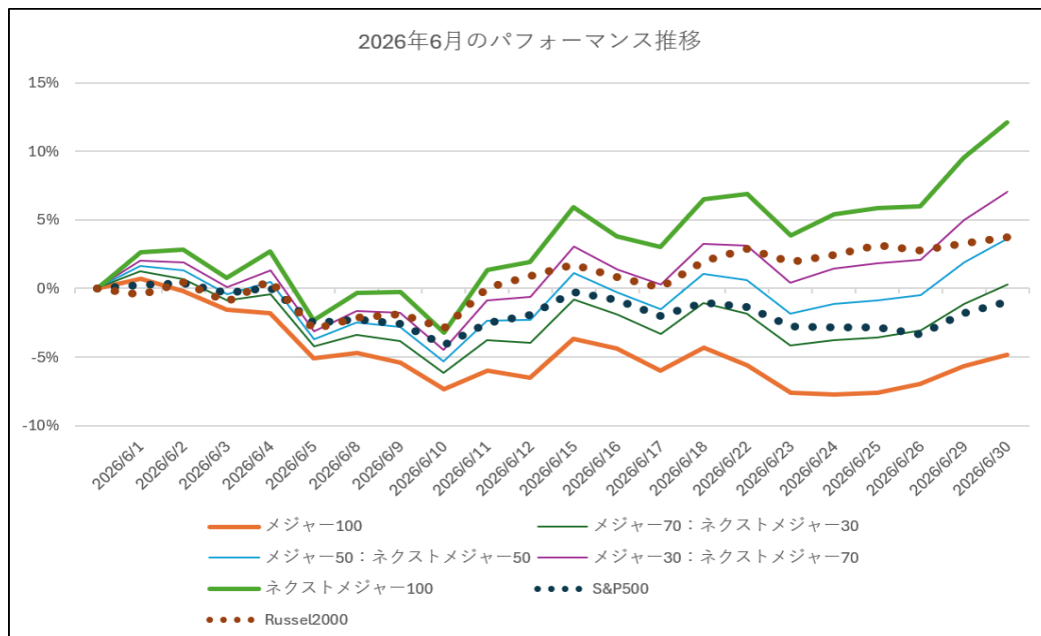
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	▲4.81%
ネクストメジャー100	+12.10%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	▲1.06%
Russell2000	+3.60%
NY ダウ	+2.52%
NASDAQ	▲2.81%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	ネクストメジャー100	12.10%	Russel2000	3.60%	8.51%
2位	メジャー30：ネクストメジャー70	7.03%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	2.20%	4.83%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	3.65%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	1.27%	2.38%
4位	メジャー70：ネクストメジャー30	0.26%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	0.33%	-0.07%
5位	メジャー100	-4.81%	S&P500	-1.06%	-3.75%
	全戦略平均	3.65%			2.38%

※各指標のベンチマークについて

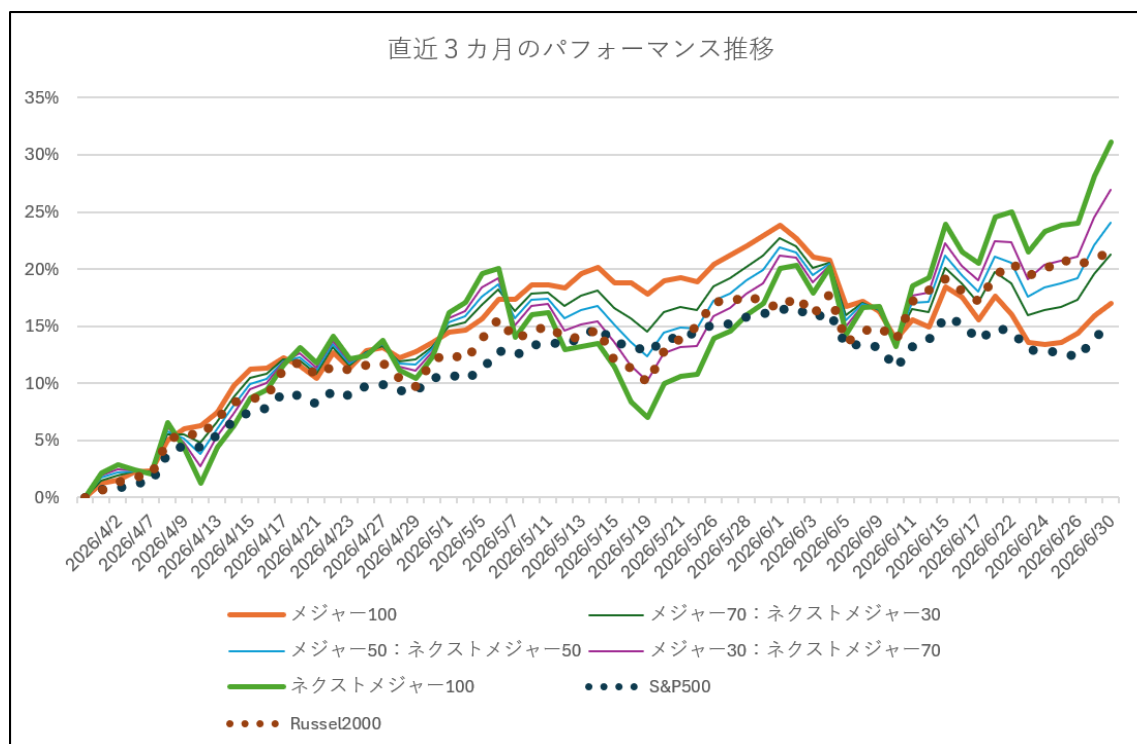
メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

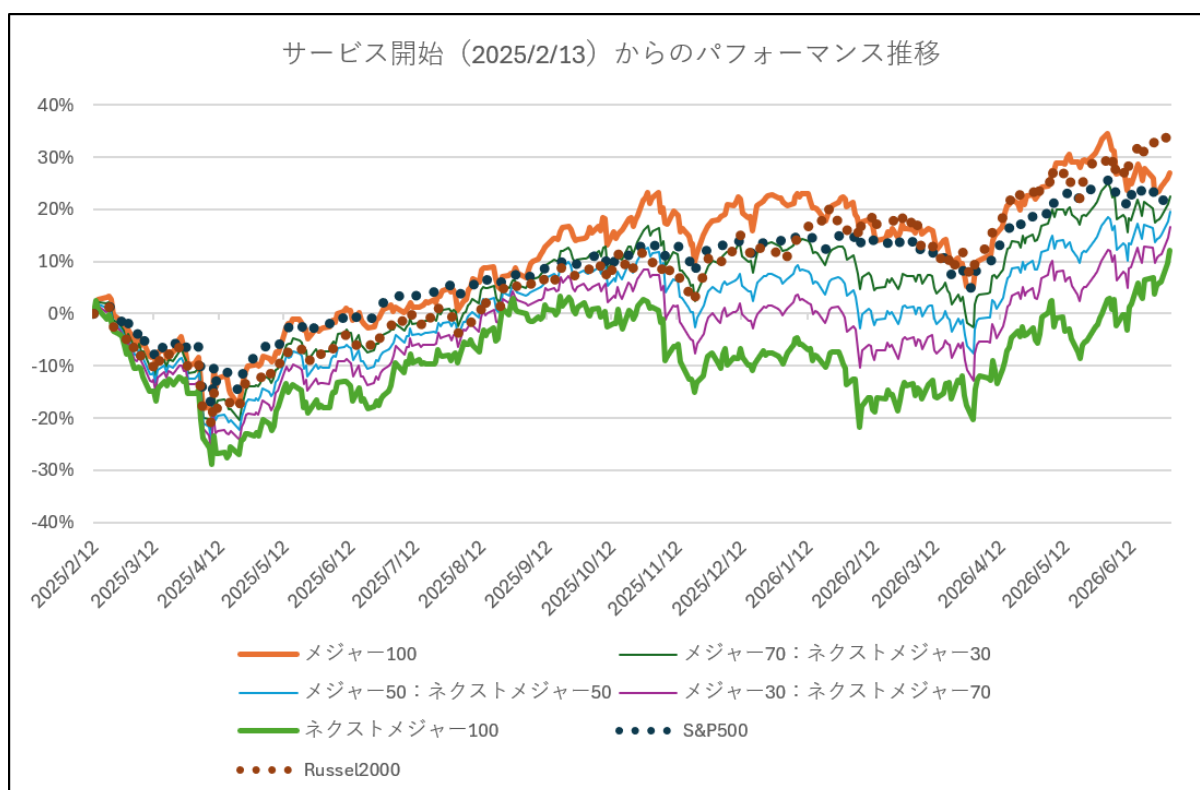
WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）最も月間成績が良かった戦略は、「ネクストメジャー100」でした。月間で+12.10%、対ベンチマーク超過収益では+8.51%となり、ベンチマークを大幅にアウトパフォーマンスする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年6月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年6月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	-4.81%	2.36%	4.74%	25.48%	27.10%	1.16	2.31
ネクストメジャー100	12.10%	11.18%	24.14%	31.65%	12.11%	0.80	1.38
S&P500	-1.06%	3.89%	9.67%	20.99%	24.05%	1.42	2.90
Russel2000	3.60%	7.06%	22.41%	39.39%	34.51%	1.07	2.00

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

■ 6月の市況概況

➤ 米国市場

6月の米国市場は、インフレ指標の高止まりや中東情勢の緊迫・緩和が交錯する中で、AI関連銘柄への巨額投資に対する期待と懸念が市場を牽引する展開となりました。タカ派的な金融政策見通しに関わらず、半導体関連を中心とした熱狂的なAI相場が継続しました。

・第1週（6月1日～6月5日）／ダウ平均：▲0.32% S&P 500：▲2.59%、NASDAQ：▲4.68%

最高値更新と労働市場の堅調さ

ISM製造業景況指数などの好調を受け、ハイテク株を中心に主要3指数が揃って最高値を更新しました。しかし、5月の雇用統計が非農業部門雇用者数17.2万人増と予想を大幅に上回ったことで、年内利上げ観測が急浮上し、週末にかけて金利上昇とともにハイテク株が急落しました。

・第2週（6月8日～6月12日）／ダウ平均：+0.66%、S&P500：+0.65%、NASDAQ：+0.70%

インフレ高止まりと中東リスクの交錯

5月のCPI（消費者物価指数）が前年同月比4.2%上昇と高止まりし、長期金利の上昇が意識されました。イランとの情勢悪化懸念からダウが一時5万ドルを割り込むなど軟調な展開が続きましたが、スペースXの大型IPOを抑えたハイテク銘柄への期待感が市場を下支えました。

・第3週（6月15日～6月19日）／ダウ平均：+0.71%、S&P 500：+0.93%、NASDAQ：+2.43%

タカ派FOMCと米イラン合意の好感

ウォーシュ新議長体制で初となるFOMC（米連邦公開市場委員会）では政策金利が据え置かれたものの、年内の利上げが示唆されタカ派的な内容となりました。一方で、米国とイランが戦闘終結の覚書に署名したことで原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したため、ダウは過去最高値を更新しました。

・第4週（6月22日～6月26日）／ダウ平均：+0.60%、S&P500：▲1.95%、NASDAQ：▲4.60%

AI相場の調整とマイクロンの好決算

高値警戒感やオープンAIの上場延期報道からAI関連株が売られ、ナスダックは続落しました。しかし、マイクロン・テクノロジーが純利益15倍という市場予想を上回る好決算を発表したことで、AI需要の持続性が裏付けられ、半導体関連株に買い戻しが入りました。

・第5週（6月29日～6月30日）／ダウ平均：+0.26%、S&P500：+0.79%、NASDAQ：+1.52%

インフレ鈍化期待と半導体株の再上昇

5月のPCE物価指数は前年比4.1%上昇と予想に一致し、利上げへの過度な警戒感が和らぎました。イラン情勢への不透明感が残る中、AMDなど割安感のある半導体小型株が買われて相場を牽引し、ダウは最高値を更新、S&P500とナスダックは四半期ベースで2020年以来最大の上昇率を記録しました。

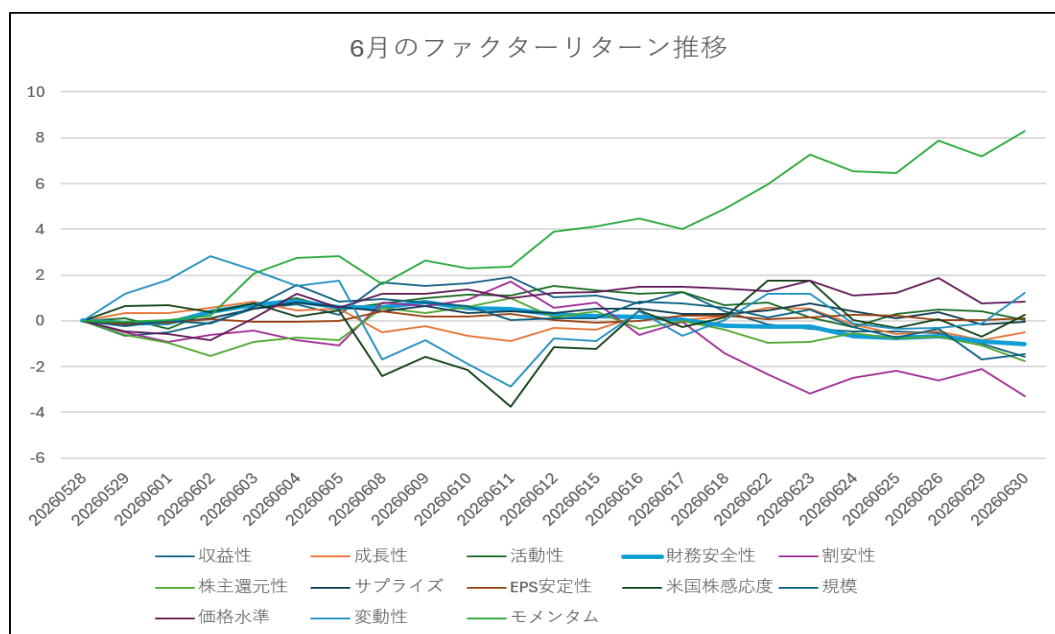
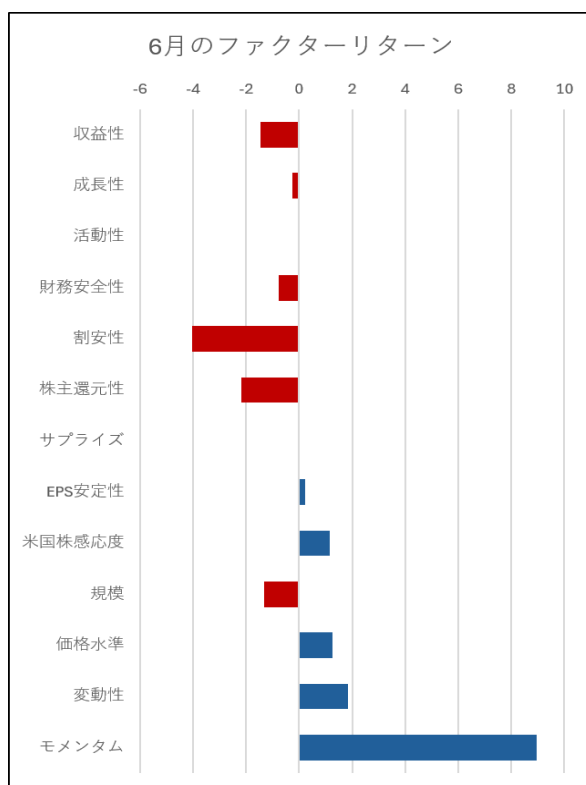
■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

6月は、上昇に勢いがあるハイリスクの中小型株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、モメンタムファクター・変動性ファクター・米国株感応度ファクターが大きくプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクター・規模ファクター・成長性ファクターがマイナスとなり、

買いが集中していたAI・半導体関連銘柄に高値警戒感が出始める一方で、米国とイランの和平交渉進展への期待と原油価格下落があり、これまでのハイリスクのグロース株への集中から、上昇に勢いがあるハイリスクの中小型株に資金が向かったことが見て取れます。

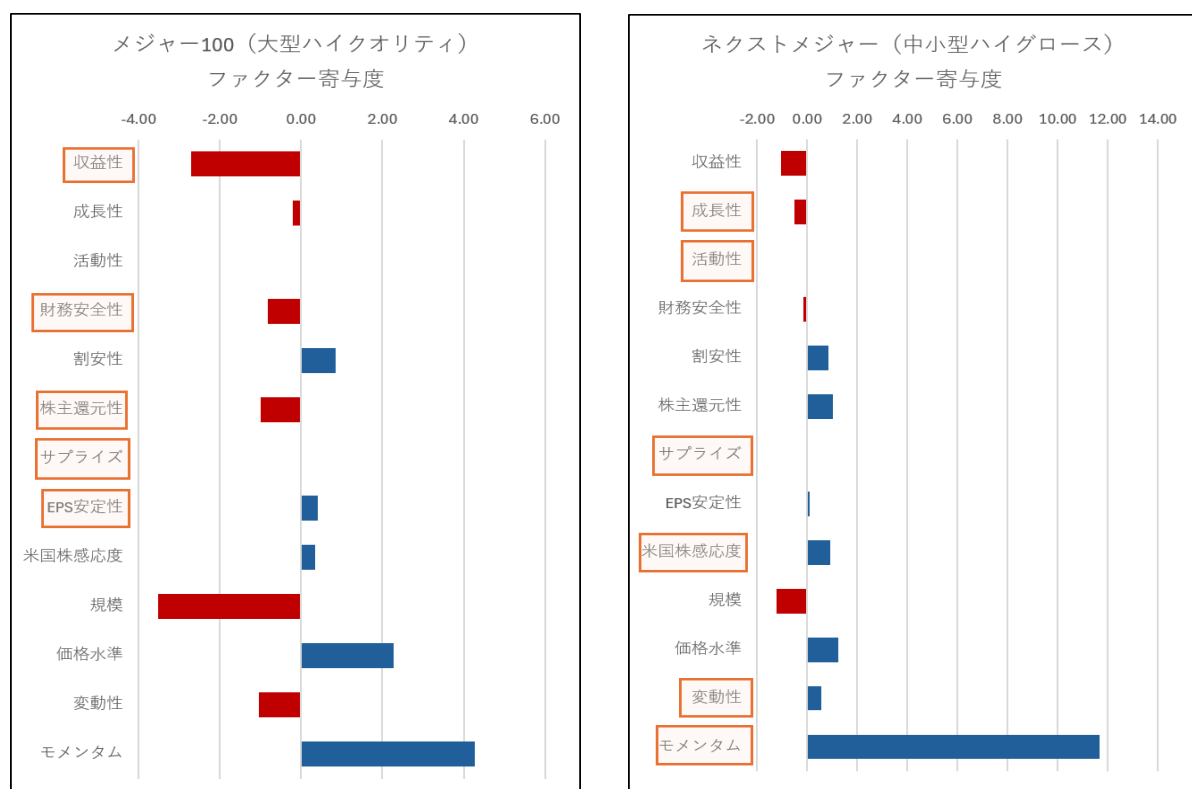


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「高収益・高成長」といったポートフォリオ特性がマイナスに寄与、さらに、大型特性もマイナスに寄与したためです。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussell2000をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高成長、好業績（＝ポジティブ・サプライズ）」特性がマイナスに寄与するも、「高米国株感応度（＝ハイベータ）、高変動性（＝ハイリスク）、上昇モメンタム」といったポートフォリオ特性が大きくプラスに寄与したためです。



6月は、大型のAI・半導体関連銘柄への熱狂とも言える資金集中への警戒感が高まり、一部では大型株から中小型株へシフトする動きが見られました。

一方で、これまでの経験則では測れない「過去最大のメモリ不足が継続する」と見る向きもあり、半導体相場への相反する思惑の売り買いが交錯したことで、極めて価格変動の大きな市況環境となりました。

現在、地政学リスクの高まりやAIによる破壊的な産業革命が起きており、極めてハイリスクな相場環境が継続しておりますが、引き続き丁寧なリスク管理を行いながら、成長株をご提供してまいります。

➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	MU	マイクロン・テクノロジー	6.4%	1.619%
	DRAMやNANDフラッシュなどの半導体メモリの設計・製造。2026年6月は、AIサーバー向けの高帯域幅メモリ（HBM）の深刻な供給不足が続く中、第3四半期決算への期待から株価が一時1,213ドルの過去最高値圏まで急騰しました。AI関連の需要（大手AIスタートアップとの大型契約の観測など）が引き続き強力な買い手掛かりとなっています。AI主導のメモリのスーパーサイクルは2027年まで持続するとの見方もあります。			
2	V	ビザ	9.2%	0.437%
	世界最大の決済ネットワークおよび決済処理サービス企業。2026年6月時点では、安定した個人消費とクロスボーダー（国際間）取引の堅調な伸びを背景に、株価は340ドル台を維持し、安定した値動きを見せています。決済のデジタル化による手数料収入が確実なキャッシュフローを生み出しています。ディフェンシブかつ中長期で安定成長を期待できるメガキャップ金融株として引き続き高い信頼を得ています。			
3	LLY	イーライリリー	4.9%	0.285%
	2026年6月は、肥満症治療薬「ゼップバウンド（Zepbound）」および糖尿病薬「マンジャロ（Mounjaro）」の爆発的な世界需要が衰えを知らず、株価は1,200ドルを突破しました。市場の拡大ペースが続いており、ヘルスケアセクター最大の成長株として評価されています。			
4	LRCX	ラムリサーチ	2.0%	0.199%
	半導体製造装置（エッチングや成膜装置）の大手メーカー。2026年6月は、生成AI向け半導体および次世代メモリの増産に向けた設備投資需要を追い風に、株価が400ドル（株式分割後ベース）を突破し高値を更新しました。半導体製造の微細化・多層化に伴い同社装置の必要不可欠性が増しており、半導体の物理的インフラを支える主役として注目されています。			
5	MRK	メルク	0.9%	0.166%
	世界的な大手製薬会社。がん免疫薬「キイトルーダ」が収益の柱。2026年6月は株価が129ドル付近まで上昇し堅調に推移しました。2028年に控えるキイトルーダの特許切れ対策として、積極的なバイオテック企業の買収や、心血管・免疫疾患領域のパイプライン（新薬候補）の拡充が進んでいる点が好感されています。高い配当利回りと業績のディフェンシブな安定感から、市場のボラティリティに対するリスクヘッジ銘柄として根強い人気があります。			

ネクストメジャー（中小型ハイグロス） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	DAVE	デイベ	6.0%	2.275%
	AI主導のフィンテック企業（ネオバンクアプリ）。独自のAI審査「CashAI」を用いた低リスクな少額融資や当座貸越サービスが若年層に普及。2026年6月は収益性の劇的な改善を背景に株価が半年で約50%急騰し、370ドル台に達しました。AIを用いた金融モデリングの成功例として評価されており、最も勢いのあるフィンテック株の一つと見られています。			
2	LIF	ライフ360	1.8%	1.277%
	家族向けの位置情報共有、ドライバー安全監視などのセーフティ・プラットフォームアプリを提供。2026年6月は月間アクティブユーザー（MAU）の順調な伸びと、有料会員のマネタイズが評価されており、米国市場での圧倒的なシェアに加え、国際展開の加速が成長の原動力です。競争リスクを跳ね返すブランド力と、サブスクリプション型のストック収益の伸びが高く評価されています。			
3	BTSG	ブライトスプリング・ヘルス・サービス	7.3%	1.090%
	高齢者や障害者向けの在宅ケア・コミュニティベースのヘルスケアサービス、および特殊薬局ソリューションの提供。2026年6月下旬には株価が上場来高値となる70.72ドルを記録。上場（2024年）以来の課題だった負債の削減（デレバレッジ）が計画通りに進み、特殊薬局部門の利益率向上が会社全体の成長を力強く牽引しています。高齢化社会という長期的な構造変化に最もマッチしたインフラ銘柄として評価されています。			
4	W	ウェイフェア	4.8%	1.035%
	家具・インテリア・家庭用品に特化したEコマース大手。2026年6月は株価が一時95ドル台まで大幅に反発したものの、住宅市場の回復の遅れやインフレによる消費抑制懸念が根強く、ボラティリティの激しい展開となりました。コスト構造の最適化や物流網の効率化が評価されています。			
5	ARQT	アーキュティス・バイオセラピューティクス	2.1%	1.034%
	乾癬や脂漏性皮膚炎などの皮膚疾患に特化した後期ステージのバイオ医薬品企業。主力製品である「ZORYVE（ゾリーブ）」クリームの市場浸透が急速に進んでおり、2026年6月は売上高の拡大期待とパイプラインの順調な進捗から株価が26ドル台へ急伸しました。皮膚科領域における独自の製品優位性と今後の黒字化ロードマップがポジティブに評価されています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

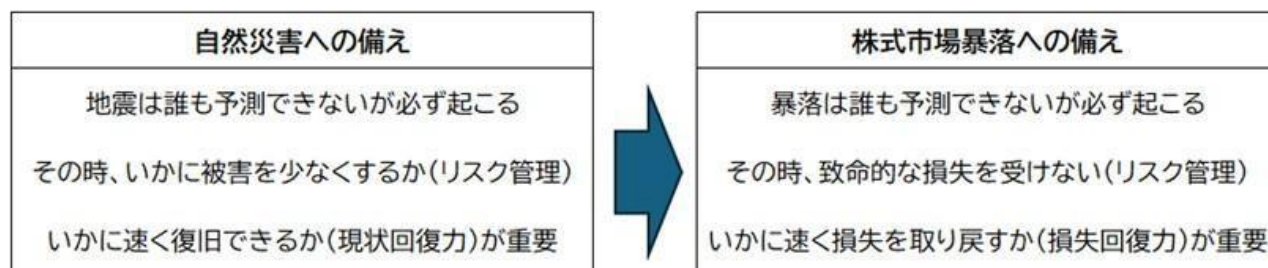
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25 銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10% 程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株（Next Major）

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年7月6日時点の情報に基づき作成されております。

（提供：株式会社スマートプラス）

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Jトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会